

お金に余裕がない狛江市で、お金を使わずアタマを使った、市民全体のための市政を目指します。



無所属の狛江市議会議員
**三宅まことの
市政レポート**

Vol.13 2019年正月号

市政報告レポート 2019年正月号【発行】狛江で分かりやすい政治を伝える会
〒201-0004 狛江市岩戸北3-18-8-701 TEL:090-3815-6045 FAX:03-3489-1677

公式HP <http://三宅まこと.com>



裏面では、
昨年の活動を
振り返ります。

市民の皆様におかれましては、お健やかな一年となりませうお祈り申し上げます。

これらの活動を続けてまいります。
きたい、「こまのNEWS」を通じて、狛江の人と人がつながっていただきたい、そんな思いを込めて、

新しい年を迎えました。今年も変わらずに「こまの数字」を通じて、狛江の行政を身近に感じていただきたい、「こまのNEWS」を通じて、狛江の人と人がつながっていただきたい、そんな思いを込めて、

この年には、単に「伝え続ける」という意味だけではなく「伝えること」を愚直に続けていくんだという思いがあります。

その駅頭で私は、「伝えるを続ける」ということを意識しています。

「伝える」を続ける

新しい年を迎えました。毎週欠かさずに月曜日に狛江駅に立たせていただいておりますが、この正月でちょうど四年が経ちました。

2018年 ミヤケが動いて実現した、こまへの3大ニュース



地域の頑張る人を、地域の方が応援するクラウドファンディング 市民参加・市民協働のためのプラットフォームが始動



年末の広報こまえに「(狛江市が) F A A V O 東京調布・府中のエリアパートナーになりました」という記事が載りました。当企画は、私が過去3年間に渡り、狛江市に実現を働きかけてきたものです。この地域クラウドファンディングという仕組みをわかりやすくご説明しますと、地域の方が取り組んできた自分の活動を地域の方に資金面で応援してもらいたい!とか、商店の方が新商品開発に関して地元の人に応援してもらいたい!といった願いを叶えてくれる、そんな市民協働を加速させるための標準装備になるということです。インターネットに不慣れという

方もいらっしゃると思いますが、専任のスタッフ(スカイスケール社)が親切に対応させていただきます。活動されている団体の資金調達等でご興味ある方は、ぜひ狛江市(政策室)を通して F A A V O に問い合わせしてみてください。



新しい農産物直売所 「トレコマ」が誕生

狛江市農産物直売所を利用されている方も多いと思います。今冬も地元の新鮮なお野菜が、ご家庭の食卓を彩っています。

市民の方にとっても、直売所がもっと身近な存在になっていけたら楽しいんじゃないか、そんな思いから生まれたのが狛江の「人」と「街」と「農家」をつなげる新しい直売所「トレコマ」です。お子さんからお年寄りまで、直売所に足を運んでくださる人を増やし、野菜を通した狛江市の新しいコミュニケーションの場になっていくことを願っています。なお、当企画立案にはたくさんの方のサポートをいただいております。



狛江では38年ぶりの議員立法 ハラスメント防止条例が施行

昨年の上半期、狛江市をお騒がせしたハラスメント問題。私は議会の役割として一刻も早くこの事態を鎮静化させるべきと考えました。駅前で署名活動をする事は、民主主義の王道ではありません。行政の定めた規則ではなく、市民に選ばれた議員が主体的に作る条例こそが、同様の事案を今後起こさないようにする最善の道と考えました。条例案は議会の党派を超えた議論の上に策定され、6月定例会で審議のうえ議決されました。狛江市議会での議員発意による条例施行は38年ぶりです。

春はもっくにや

狛江市議会議員 三宅まこと

- 1964年 東京都生まれ。立教大学経済学部卒業。
- 1987年 広告代理店・東急エージェンシーに27年間勤務
- 2014年 12年5月、120名社員プロジェクトをリーダーとして運営中に、妻が病気を発症し、要介護認定に伴い介護休職後に退社。同時に自身が社会保障の重要性に芽生え、介護初任者研修、介護事務、実務者研修修了、同行介護従業者資格取得。
- 2015年 狛江市議会選挙にて、新人ながら1871票の得票数を頂戴し、全体の2位で当選。
市議会議員活動以外に現役の介護ヘルパーとして活動中。

趣味: サッカー、読書、ゴルフ、映画鑑賞、柴犬たく(♂・11歳)
著書: 「愛妻 納税 墓参り 家族から見た三宅久之の回想録」
(2014年イースト・プレス刊) 政治評論家 故・三宅久之 三男。

